

新宮山彦ぐるーぷ第1935回ー1

南奥駆道の行仙宿へ上葛川間で行方不明者の捜索 (槍ヶ岳・地蔵岳尾根を懸垂下降などの捜索)

◇実施日：平成29年06月09日(金) 晴

◇参加者：川島 功、沖崎吉信、児嶋道夫、山川治雄、梶野照雄。

川邑隆男、宮本秀男(以上山川さんの親友)。 7名。

例年4月下旬から5月下旬の一ヶ月間は、各山小屋の年間宿泊者の半数が集中する時期であり、熊野修験の接待も加わり我々ぐるーぷとしては一番の多忙期である。

今年は特に右行事に日本山岳会との交流会(5/22～23)、新宮千穂ヶ峰を守る会(5/23～24)、三井寺奥駆行(5/26)の来宿接待に加えて、行仙宿・行者堂の「修復・役行者尊像」開眼供養法要もあつて、多忙の上に超の字が二つ来る位の忙しさであった。

5月16日～17日の開眼供養法要終了後の20日に、下北山村役場より代表宅に電話が入り「昨日、行仙宿を出て上葛川・玉置山登山口着予定の単独登山者が、帰坂しないと家族から捜索願いが出た。ついては、モノレールを借用したい」との話であった。

以後、十津川村・下北山村は、警察・消防団・役場職員等で21日から行仙宿へ上葛川集落間で行方不明者の捜索活動をされたが見つからず、23日に捜索活動が打ち切りになった。

5月29日夕方、下北山村・森岡総務課長から代表宅に電話があり「遭難者の家族は、山歩きは不慣れであるが、最終テント泊した行仙宿へ登りたいとの要望があり、新宮山彦ぐるーぷのモノレールを使用すれば比較的に楽に登れる事を伝えたら、紹介願いたいとの事から、遭難者の奥様に電話連絡先を教えるても良いか」との電話があり了承した。

直ぐに代表宅に遭難者(大阪市・向手明則・62才)の奥様から連絡が入り「体力トレーニングを欠かさず、慎重で周到に計画プ

ランを立て、吉野から計画通り行動し連絡があつた。又、携帯電話の電池切れが無い様に予備電池を4個持つて出かけるなど、行方不明になった事が信じがたい心情」をお聞きしました。又、「18日に何処かで転んだ様で、眼鏡の片方を壊している」とのこと。

「友達には、行仙宿を3時に出発して3時間半で上葛川に行くとの電話連絡があつたそうです。計画書では、笠捨山↓香精山↓上葛川分岐から降りて、上葛川トンネルを抜けた玉置山登山口バス停9時半頃のバスで帰阪する計画」になっていました。

計画書では、上葛川まで5時間10分要するのに、なぜ友達に3時間半と云つたのか、あわてていたのだろうか・・・。

笠捨山を越えて「①地蔵岳、東屋岳を通らずに鉄塔巡視路を辿る。②葛川辻から旧通信道を辿り上葛川へ下る。ルートを進めれば、時間短縮が可能なルートがある」ことを代表から伝えられた。

山岳会等に所属していないことから、友達等で何とか捜索を継続する意向であることが判りました。

本来ならば捜索活動に即参加すべきであるが、以前であれば声をかければ対応可能であつたが、当ぐるーぷの会友減と高齢化した現状では、捜索の即答も出来ず、我々の活動エリア内であり、行事を勘案しながら極力協力する事が伝えられました。

数日後、代表が阪本で農作業していると、山川さんが友達と立寄つた際に「行方不明者の捜索は、打ち切りになった。道に迷つたのでは無く、滑落・転落が想定され、この事故の可能性が高い場所は、槍ヶ岳・地蔵岳の鎖場尾根だと思ふ。

此処は、ザイルを使って懸垂下降捜索する必要があるのです。が、今回の捜索では誰も実施していませんので、行事の関係から6月下旬頃に捜索する計画をしている事を伝えました。

気象庁から6月8日に梅雨入りが発表され、6月10～11日(日)に予定していた「楊子ノ宿先の倒伏石柱道標復元と登山道整備」行事は、11日は雨の予報のため中止にした。

山川氏は、三重県山岳救助隊員資格の腕章を持たれた方で、

「友達にアプザイレンの熟練者がいて地蔵岳付近の懸垂下降による搜索を9日に実施する、ついでは何人か同行願いたい旨」の連絡があった。

中止行事へ参加予定の樋口・川島が同行する事にしたが、樋口氏の都合が悪く、児嶋・川島・沖崎の3人が同行する手配をととのえた。

当日、朝7時に行仙宿登山口に6人が集結。尚、梶野君は国道425号線から東屋岳経由にて10時30分頃に地蔵岳で合流。

搜索お礼、自己紹介を行う、川島、宮本両氏とは初対面である。

宮本氏は、前日、ネットや吉野警察署へも電話され、不明の経緯や遭難者は、身長170cm・体重70kg・黒髪・モンベル青色ザックと靴・金縁眼鏡着用の方だと説明して下さる。

修理済みチェンソー2台を荷上げし、行者堂で遭難者が見つかるように祈る。

川島・児嶋・川島・宮本氏は、ヘルメット・ハーネスを装着し、

8時20分前行仙宿を出て、笠捨山捲き道(旧通信道)経由で葛川辻、槍ヶ岳手前のNo.26鉄塔で小休止し槍ヶ岳下に10時頃に着く。

この間も、もし下の斜面にもとの思いから6人が、それぞれ目をこらして歩いたが、異状は無かった。

槍ヶ岳鎖場に取り付き、槍ヶ岳と地蔵岳鎖場への小キレットで、左右に落ち込んでいる地点に来た。此処で川島、児嶋氏の二人が組んで搜索する。

児嶋さんは、懸垂下降した搜索箇所がダブらない様に、はがき大のダンボール札を掛ける指示があり、用意されていた。又、二次遭難しないよう各自がエイト環、アッセンダー(登高器)等でビレイを確実に慎重に行う。

この先に梶野君が待機しているはずと4人は、二人に託して地蔵岳山頂方面へ。直ぐに梶野君と合流した。

梶野君の話では、東屋岳方面の最後の鎖場で、体を預けるための鎖とザック用鎖の鎖が2本下がっているが、ザック用の鎖が途

中で切れているとの情報から、その鎖場に向う。確かに途中から切れている。切れて下へ落ちたことも事も考えられることから、宮本さんは左、川島さんは右へ下降された。

その間、梶野、沖崎で鎖の検分をするが、切れてはいるが、鎖の口が開いた状態ではなく、上からの下部にはシャックルがあつて異常がない、何故こうなったか判らないが、元の状態に戻した。

右に降りた川島さんは、12〜13分で戻って来たが、左の宮本さんはかなり苦戦されていて、川島さんがサポートに降りる。

30分位要したが、左右とも落ちた様子は無いとのこと。

川島、児嶋両氏は、3地点・4箇所、40mザイルで懸垂下降(左右1カ所)し、更に斜面基部を横に辿って搜したり、降りた地点から左右の急斜面を見て搜したが、見つからなかったと、やって来て全員7名が揃い昼食にした。

梶野君は、昨日十津川警察署へ出向き不明者の計画書や搜索情報を聞いてくれていた。



懸垂下降装備の方々



ザイルで懸垂下降



本日の搜索者

4人(川島・宮本・児嶋・川島)が、槍ヶ岳と地蔵岳尾根の転落・滑落しそうな計8カ所を懸垂下降搜索したが、手掛りも含め発見

には至らなかった。

今回の搜索から槍ヶ岳・地藏岳を通らず、鉄塔巡視路を通り香精山手前へのルートを通った可能性も大きく、下山ルートの特定は難しいが、これと思う事を一つ一つつぶして行くしかないだろう。

帰路は、捲き道ではなく、笠捨山頂を経由して、岩稜の岩場下の基部を歩行搜索したが、見つからなかった。

16時過ぎに行仙宿に戻り、落石防止工事の通行規制解除の17時過ぎに通過して帰宅した。

尚、梶野君は、帰路15時半に十津川警察署に立寄り、搜索状況を報告した。

(記 沖崎)

新宮山彦ぐるーぷ第1935回―2

南奥駆道の行仙宿～上葛川間で行方不明者の搜索

(上葛川集落～葛川辻～鉄塔巡視路～香精山間の搜索)

◇実施日；平成29年06月11日(日) 曇り時々小雨

◇参加者；山川治雄、中村佳文、杉松道之。 3名。

山川さんは、この日天気具合不安の中、中村、杉松両氏の協力を頂き、上葛川集落奥の旧木馬道(旧通信道)から葛川辻間の4地点で、ザイルで降りたが見つからず。更に槍ヶ岳手前のNo26鉄塔から鉄塔巡視路を辿り、香精山近く迄搜索されたが、見つからなかったとの事だった、

(山川氏より聴取し沖崎記)

新宮山彦ぐるーぷ第1935回―3

南奥駆道の行仙宿～上葛川間で行方不明者の搜索

(行仙宿～笠捨山捲き道～No25鉄塔巡視路の搜索)

◇実施日；平成29年06月13日(火) 晴

◇参加者；梶野照雄。

1名。

ネットの山行記録に、No25鉄塔の巡視路に迷い込んだ人が、あったので確認に行ってきました。

危ない所はありますが、異常なしでした。鉄塔までは階段もありはつきりした道です。鉄塔から先は道がありません。

